

2021年度

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	履修学年	中学・ 高校	3年	選択者組	
単位数	6単位	使用教科書 教材等	山川出版社『改訂版詳説世界史』・山川出版社『授業用詳説世界史整理ノート』・第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表二訂版』 浜島書店『要点整理ゼミナール世界史』・実教出版『五訂必携世界史用語』					
担当者	大久保 靖							
学習目標	大学入試科目として世界史Bを選択した生徒を対象とした授業。 高校2年生までに履修できていない時代・地域・文化圏の通史的理解を深めるとともに、歴史的なものの見方や考え方の習得を目標としつつ、受験に必要な知識と技能を身につける。なお、高校1年次に学習した範囲についても復習して理解の定着をはかるものとする。問題演習については授業内での実施が難しいため、適宜放課後補習を実施したり夏期・冬期講習会にて集中的に行う。							
学習内容	1学期・・・第5章・第4章・第6章・第7章・第8章・第9章・第10章・第11章 2学期・・・第11章・第12章・第13章・第14章・第15章・第16章							
授業方法	通年講義形式で進める。学習範囲に応じて問題集で復習し確認させる。また、適宜小テストを授業内で実施する。							
備考	評価については、定期考査・授業内小テスト及び課題提出状況と授業態度等を総合的に評価する。							
授業計画								
学期	月	学習内容・単元等					区分 1 評価	区分 2 評価
1 学期	4月	第5章第3節・第4節 第4章第1節・第2節	ヨーロッパ世界の形成と発展 イスラーム世界の形成と発展①				1 学期 中間 考査	
	5月	第4章第3節・第4節 第3章第1節 第6章第1節・第2節・第3節 第7章第1節・第2節	イスラーム世界の形成と発展② 草原の遊牧民とオアシスの定住民 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 アジア諸地域の繁栄①					
		6月	第7章第3節・第4節 第8章第1節・第2節・第3節・第4節 第9章第1節・第2節・第3節 第10章第1節・第2節・第3節	アジア諸地域の繁栄② 近世ヨーロッパ世界の形成 近世ヨーロッパ世界の展開 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立①				
		7月	第10章第3節 第11章第1節・第2節・第3節 夏期講習	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立② 欧米における近代国民国家の発展① 入試問題演習①				
	8月						2 学期 中間 考査	
	2 学期	9月	第11章第4節 第12章第1節・第2節・第3節 第13章第1節・第2節	欧米における近代国民国家の発展② アジア諸地域の動揺 帝国主義とアジアの民族運動①				
10月		第13章第3節 第14章第1節① 第14章第1節②	帝国主義とアジアの民族運動② 二つの世界大戦① 二つの世界大戦②					
		11月	第14章第2節・第3節・第4節・第5節 第15章第1節・第2節・第3節・第4節 第16章第1節・第2節・第3節・第4節	二つの世界大戦③ 冷戦と第三世界の独立 現在の世界				
12月		冬期講習	入試問題演習②					
1月								
3 学期	2月							
	3月							

教科名	地理歴史	科目名	日本史B演習	履修学年	中学・ 高校	3年	1, 3, 6	組	
単位数	週あたり6時間	使用教科書 教材等	山川出版社『詳説日本史』・『日本史用語集』 浜島書店『新祥日本史』 Z会『日本史100題』 東京法令出版『新編 史料日本史』						
担当者	増尾								
学習目標	通史の学習をしていく中で、史資料を活用して時代ごとの特徴を把握する能力を身に付けるとともに、理解したことを自分の言葉や文章で表現できるようになる。また、それと同時に受験に必要な知識を身に付けていく。								
学習内容	『詳説日本史』（山川出版社）P.177「江戸時代初期の外交」から、現代までの歴史について学習する。								
授業方法	基本的にはプリントの穴埋めをする形で授業を進め、必要に応じて史資料も活用する。 通常の授業内では主に政治史を中心に扱い、文化史については配信する授業動画や1学期終了後の講習の時間を解説に充てる。また文化史は、単元をまとめた小テストを実施する場合がある。								
備考	評価は、定期考査の得点に平常点（課題の得点・授業態度・小テストの得点など）を加味して算出する。学期末の評価が3以下の場合は、再試験の実施、または課題を課すこととする。								
授業計画									
学期	月	学習内容・単元等						区分 1 評価	区分 2 評価
1 学期	4月	江戸時代初期の外交 4. 幕藩社会の構造 第7章 幕藩体制の展開						1 学期 中間 考査	プ リ ン ト 提 出 ・ 小 テ ス ト
	5月	第8章 幕藩体制の動揺 第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 2. 明治維新と富国強兵 3. 立憲国家の成立と日清戦争							
	6月	4. 日露戦争と国際関係 5. 近代産業の発展 第10章 二つの世界大戦とアジア 1. 第一次世界大戦と日本						1 学期 期 末 考 査	
	7月	↓ (講習：明治文化、大正文化、昭和初期の文化、戦時下の文化)							
	8月								
2 学期	9月	2. ワシントン体制 4. 恐慌の時代 5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦						2 学期 中 間 考 査	プ リ ン ト 提 出 ・ 小 テ ス ト
	10月	第11章 占領下の日本 1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1. 55年体制 2. 経済復興から高度成長へ							
	11月	第13章 激動する世界と日本 1. 経済大国への道 2. 冷戦の終結と日本社会の変容 問題演習							
	12月	↓							
3 学期	1月								
	2月								
	3月								

教科名	社 会	科目名	倫 理	履修学年	高 校	3 年 全 組			
単位数	2 単 位	使用教科書 教材等	実教出版『高校倫理』・浜島書店『最新図説倫理』						
担当者	梅澤・高橋・池田								
学習目標	先哲の思想を学ぶ中で、自分自身の思索を深めるとともに、他者と共生するための対話の仕方を身につける。								
学習内容	古代の思想を中心に学ぶことで現代思想の中核を理解し、3学期は各思想家の人生と思想を探究する。								
授業方法	2学期までは主として講義形式で行い、各単元末には可能な範囲でワークなどの実施を予定している。 3学期はワーク等の形式で倫理的思考を深める授業を行う。								
評価方法	定期考査の素点に基づき、平常点も加味して評価する。								
授業計画									
学期	月	学習内容・単元等 (★は単元末のグループワーク等)					時間 数	区 分 1 評 価	区 分 2 評 価
1 学 期	4月	青年期の課題と自己形成					9	1 学 期 中 間 考 査	
	5月	古代ギリシアの自然科学 ソクラテスの思想 プラトンの思想 アリストテレスの思想 ヘレニズムの思想							
		6月	ユダヤ教の思想 イエスの思想・キリスト教の思想と発展						
			7月	イスラームの思想					
	8月						11	1 学 期 期 末 考 査	
2 学 期	9月	古代インドの思想 ブッダの生涯と思想					13	2 学 期 中 間 考 査	
	10月	仏教の展開 儒家の思想							
		11月	道家の思想						
	12月						11		
3 学 期	1月	★各思想家の生涯と思想の探究（グループワーク）					6		
	2月								
	3月								

教科名	地理歴史	科目名	自選日本史B	履修学年	中学・ 高校	3年1、3、6組
単位数	週あたり2時間	使用教科書 教材等	山川出版社『詳説日本史』・『日本史用語集』 浜島書店『新祥日本史』 Z会『日本史100題』 東京法令出版『新編 史料日本史』			
担当者	増尾					
学習目標	様々なテーマごとに歴史を眺めることで、多角的な視点を養う。 また、問題演習を通じて入試における解答のポイントを理解するとともに、様々な問題形式に対応できるようにする。					
学習内容	1学期については既習内容の問題演習や、テーマ史の解説を行う。 2学期では引き続きテーマ史の解説をするとともに、より総合的な問題演習を行う。					
授業方法	テーマ史については、プリントの穴埋めを中心に解説を行う。 問題演習の方については、授業前にあらかじめ問題を解かせ、授業内で解説することを基本とする。					
備考	評価は、定期考査および平常点（課題の得点・授業態度など）によって行う。					

授業計画

学期	月	学習内容・単元等	区分1 評価	区分2 評価
1学期	4月	問題演習／テーマ史解説 史料問題（古代～近世） 文化史（飛鳥文化～室町文化）	1学期 中間考査	
	5月	地図問題		
	6月	テーマ史（土地制度史） テーマ史（北海道・沖縄史）	1学期 期末考査	
	7月	↓		
	8月			
	2学期	9月	問題演習／テーマ史解説 外交史（日中・日朝） 貨幣・経済史	
10月		史料問題（近代～） 様々な問題演習（主に日東駒専～GMARCHレベル）		
11月		↓		
12月				
3学期	1月			
	2月			
	3月			

教科名	地 理 歴 史	科目名	自由選択地理	履修学年	高校	3 年	自由選択	
単位数	2 単位	使用教科書 教材等	教 材 副教材	新詳細理B (帝国書院) 新詳高等地区 (帝国書院) 新詳地理資料 COMPLETE (帝国書院)				
担当者	矢口 (陽)							
学習目標	社会の「諸現象」を自然・社会環境の点から考え、「諸現象」を地理的な見方や考え方から理解できるよう指導する。							
学習内容	世界のさまざまな自然（地形や気候など）を理解させ、この環境の上に見られる人間活動である農業や鉱工業、生活文化、そして都市や村落などの様子について説明していく。 系統地理や大陸別の地誌に関する共通テストや私大マーク模試の良問を解答解説し、高2で学んだ内容の復習および授業で扱えなかった単元を理解させる。随時、課題を課し予復習を充実させる。							
授業方法	各単元は教科書の流れで進み、副教材や統計資料を参考に関連する内容を加え進めていく。説明のときは生徒の身近な例を取り上げ理解できるようにする。 共通テストに向けた演習は、授業のほか放課後補習や夏期講習でも実施する。							
備 考	各学期の定期考査を基準として、平常点（課題提出など）を加算する。							
学期	月	学習内容・単元等					区分 1 評価	区分 2 評価
1 学 期	4 月	・第3次産業	・国内外の商業・サービス業、観光業、情報通信産業の現状について説明し理解させる。 ・共通テストに向けた演習を行い解説する。				1 学 期 中 間 考 査	
	5 月	・人口/都市・村落	・国内外の人口問題や都市の成り立ち、村落形態について説明し理解させる。 ・共通テストに向けた演習を行い解説する。					
	6 月	・衣食住	・世界の生活様式の差異や民族言語の分布、多文化共生について説明し理解させる。 ・共通テストに向けた演習を行い解説する。					
	7 月	・東アジア地誌 ・東南/南アジア地誌 ・西/中央アジア地誌						
	8 月	(夏期講習)	・共通テストに向けた演習を行い解説する。					
2 学 期	9 月	・アフリカ地誌 ・ヨーロッパ地誌 ・CIS地誌	・共通テストに向けた演習を行い解説する。				学 年 末 考 査	
	10 月	・北アメリカ地誌 ・ラテンアメリカ地誌 ・オセアニア地誌	・共通テストに向けた演習を行い解説する。					
	11 月	・日本地誌 ・日本の諸課題 ・世界の諸課題	・共通テストに向けた演習を行い解説する。					
	12 月	・総合問題	・共通テストに向けた演習を行い解説する。					
3 学 期	1 月							
	2 月							
	3 月							

教科名	社 会	科目名	倫理・政治経済	履修学年	高 校	3年	自由選択	
単位数	1 単 位	使用教科書 教材等	実教出版『高校倫理』・浜島書店『最新図説倫理』					
担当者	梅澤 冬紀							
学習目標	大学入試共通テストに対応するための基礎的な知識を定着させ理解を深めると共に、仲間や先哲の知的蓄積との対話を通して人間の生き方在り方について思索を深め、現代社会における諸課題と向き合う主体性を育む。							
学習内容	必修倫理で扱われない日本思想・西洋思想について学習する。大学入試共通テストを目的とするため、教科書の脚注に出てくる細かな内容についても学習することになる。自分で教科書を読んで予習したり、授業をふまえて							
授業方法	教科書にそった内容を、より大学入試に対応できる形にまとめたプリントを毎回配布する。 また、センター試験の過去問題や予想問題を用いた演習も随時行い、解説する。							
評価方法	学期末に授業内で定期考査を実施する。センター試験・共通テストの過去問をアレンジして出題する予定である。 平常点を加味して評価をする。							
授業計画								
学期	月	学習内容・単元等					区分 1 評価	区分 2 評価
1 学期	4月	古代日本人の思想						
	5月	日本の仏教思想 近世日本の思想						
	6月	西洋思想の受容と展開						
	7月							
	8月							
2 学期	9月	人間の尊厳 科学・技術と人間						
	10月	民主社会と自由の実現 社会と個人						
	11月	人間への新たな問い 社会参加と幸福						
	12月	問題演習						
3 学期	1月							
	2月							
	3月							

教科名	社 会	科目名	倫理・政治経済	履修学年	高 校	3 年	自由選択		
単位数	1 単 位	使用教科書 教材等	実教出版『高校政治経済』						
担当者	梅澤 冬紀								
学習目標	大学入試共通テストに対応するための基礎的な知識を定着させ理解を深めると共に、主権者に必要とされる主体的に社会に参画しようとする態度や、資料を適切に読み取り多面的・多角的に考察する技能を養う。								
学習内容	経済分野・政治分野の順に教科書の復習を進める。大学入試共通テストを目的とするため、自分で教科書を読んで復習したり、授業をふまえて自分でまとめノートをつくったりするなど自主的な学習が望まれる。								
授業方法	教科書にそった内容を、より大学入試に対応できる形にまとめたプリントを毎回配布する。 また、センター試験の過去問題や予想問題を用いた演習も随時行い、解説する。								
評価方法	学期末に授業内で定期考査を実施する。センター試験・共通テストの過去問をアレンジして出題する予定である。 平常点を加味して評価をする。								
授業計画									
学期	月	学習内容・単元等					時間 数	区 分 1 評 価	区 分 2 評 価
1 学 期	4 月	経済社会の変容							
	5 月	現代経済のしくみ 現代経済と福祉の向上							
	6 月	世界経済と日本							
	7 月								
	8 月								
2 学 期	9 月	民主政治の基本原理 日本国憲法の基本的性格							
	10 月	日本の政治機構 現代日本の政治							
	11 月	現代の国際政治							
	12 月								
3 学 期	1 月								
	2 月								
	3 月								